

2025.6
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく 富 薬

6号

第47巻
No.431



ハナミヨウガ *Alpinia japonica* Miq.

(ショウガ科 *Zingiberaceae*)

生 薬 イズシュクシャ(伊豆縮砂) 秋10～11月ころ、赤熟した果実から種子を取り出し、白い仮種皮を取り除き、陰干しする。

成 分 精油：cineol, β -pinene, sesquiterpene, sesquiterpene alcohol、フラボン類：izalpinin, alpinone, nor-alpinone-3,5-dimethyl ester 等。

効 能 胆汁分泌作用、胃酸分泌制御作用、抗アレルギー作用などがあり、芳香性健胃薬として食欲不振、消化不良、腹痛・下痢などに用いる。過去に縮砂の代用品として用いられた。

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



国内で生育するショウガ科植物は、熱帯アジア原産で古い時代に渡来した考えられているショウガ属 (*Zingiber*) のミョウガ (*Z. mioga*) を除くとハナミョウガ属 (*Alpinia*) の数種が自生するだけです。本州関東地方以西、四国、九州、および台湾、中国南部など暖帯から亜熱帯の樹陰に生育する常緑の多年草です。太く分枝する根茎を持ち、中国では山姜と云い、腹痛や筋肉の痛み、打撲、生理不順に用います。数個の葉が2列に出て、葉鞘が巻いて重なり偽茎になります。葉は長さ15-40cm、幅5-8cmの広披針形~長楕円形で、先が尖ります。葉の両面にビロード状の毛が生え、特に裏面に多く生えます。5-6月、偽茎の先に長さ10-15cmの穂状花序を出します。唇弁状に広がる仮雄ずいは白地に紅色の筋があり、花弁状に発達した目立つ花を咲かせます。葉や茎がミョウガに似ていて、花が目立って美しいところから名が付けました。果実は長さ1-2cmの広楕円形で、晩秋から冬に赤く熟します。種子を伊豆縮砂と云い、縮砂 (*Amomum xanthioides*) の代用とします。香りが良く香辛料やソースの原料とされます。

伊豆縮砂の名は『多識編』(1612)に「高良薑 今案ずるに於保久礼、今俗に誤て伊豆縮砂と為す」とあることが初めてです。伊豆縮砂を高良薑の果実と間違えてはいます。『大和本草』(1709)には「杜若」の項に「ヤブミョウガと云。葉は生薑に似てひろし。やぶの内、陰地に生ず。楚詞に出たり。根は良薑に似て小なり。実は豆蔻に似て本草と合えり。我国、俗に杜若の根を良薑とし、子を砂仁とす。伊豆縮砂と云あやまれり」と、ハナミョウガにヤブミョウガを充てていますが、ツルクサ科にヤブミョウガという植物があり、誤りです。また根茎を良薑、種子を砂仁(縮砂?)と誤っているなど、混乱している様子が伺えます。『和漢三才』(1713)では「縮砂薔」の項に「倭縮砂、伊豆国に於出。是の針木の実也。形桑椹に似て其の皮薄く而色白く実黒く、牽牛子に似る。之を用いて縮砂に充てる」とあり、伊豆国から出る倭の縮砂としてあつかっています。すこし後の『用薬須知』(1726)では「縮砂 漢ただ一種のみ。偽無く、和に伊豆縮砂と称するものあり。是良姜の実にして縮砂に非ず。綱目に云へる紅豆蔻なり」と、縮砂ではなく、伊豆縮砂としていますが高良薑の実を紅豆蔻としている所は誤っています。『本草綱目啓蒙』(1803)になって「山薑 ハナメウガ(杜若も国に因りてハナメウガと云う) 漢渡りなし。花戸に此の草を良薑と呼び薬舗にこの根を良薑と名て貨るものは並に非なり。和州(奈良県)三輪、江州(滋賀県)三井寺山中に有り、又紀州(和歌山県)、豆州(静岡県伊豆)、勢州(三重県)尤も多し。葉の形薑葉に似て互生し、毛茸多し、夏茎の高さ一尺許梢に穂を成して花を開く。色白くして紅斑あり。建蘭の花の如くにして至て小なり。実を結ぶ。熟すれば色赤く形円長五分許、破れば中に子あり。これを伊豆縮砂と称して偽り貨る。子の形縮砂に似たるを以てなり。黒手、白手の二種あり。即ち山薑実なり。此の根細長にして浅茶褐色、味苦して臭気あり。渾て良薑の気味に非ず。市人、良薑と呼ぶ者は非なり」と、「山薑」の項に入れ、ハナミョウガの植物説明と代用品としての伊豆縮砂について記されています。後の第七改正日本薬局方に収載され、「イズシュクシャはハナミョウガ *Alpinia japonica* Miquel (*Zingiberaceae*) の成熟した種子から仮種皮を除いて乾燥したものである」と規定されていました。

以上のようにハナミョウガの種子を伊豆縮砂として縮砂の代わりに用いたことが記されていますが、漢名の項目名は『多識編』では「高良薑」を用い、『大和本草』では「杜若」、『和漢三才』は「縮砂薔」、『用薬須知』は「縮砂」、『本草綱目啓蒙』は「山薑」と記され、それぞれバラバラです。無理して漢名を付けずに和産生薬として「伊豆縮砂」だけにすればすっきりするのではと思います。

(村上守一 記)